



「男性にとっての男女共同参画」に関する意識調査報告書について

- 男性の役割分担意識に関する意識を「5つの志向性」に分類した
- 「5つの志向性」の度合い、日常生活の行動等（夫婦の会話等）と志向性との関連性が明らかになった

※主にインターネット調査により実施

- ・男性 3000 人 平成 23 年 11 月 28 日（月）～11 月 30 日（水）
- ・女性 3000 人（補足的に実施） 平成 24 年 1 月 20 日（金）～1 月 23 日（月）

内閣府が、日本 PMI コンサルティング株式会社に委託して実施した。

今回の調査のポイント

1 男性の役割分担意識に関連する「5つの志向性」とは

主導権役割志向 男女の関係性において重要事項を決めるのは自分であるという志向性(概要 3～5 ページ)

経済的役割志向 家族を経済的に支えるのは自分で、妻が働くことは期待しない志向性(概要 5～7 ページ)

社会的役割志向 仕事の業績を評価されたい、社会的に活躍したいという志向性(概要 8～10 ページ)

私的感情の抑制志向 悩み相談や弱音などプライベート感情を見せない志向性(概要 10～12 ページ)

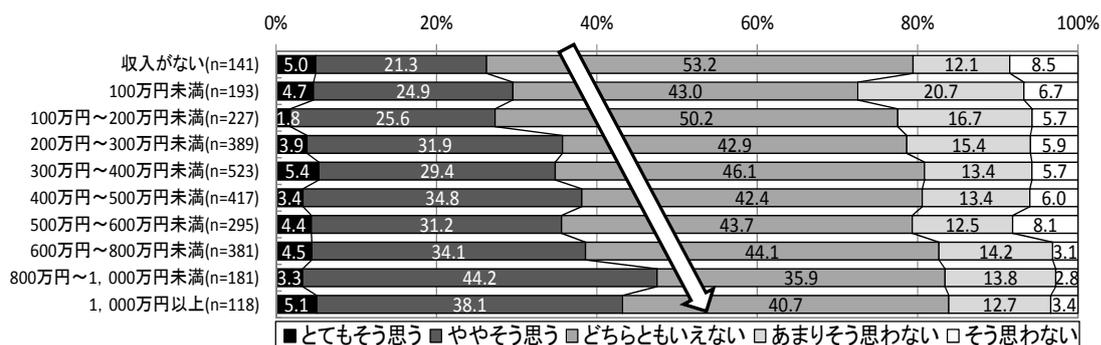
日常生活依存志向 家事など生活全般を妻に依存し、自分がやることを避ける志向性(概要 12～13 ページ)

2 男女のギャップなどから見る「志向性の度合い」について

収入が高いほど、妻や恋人に従ってもらいたい -主導権役割志向-

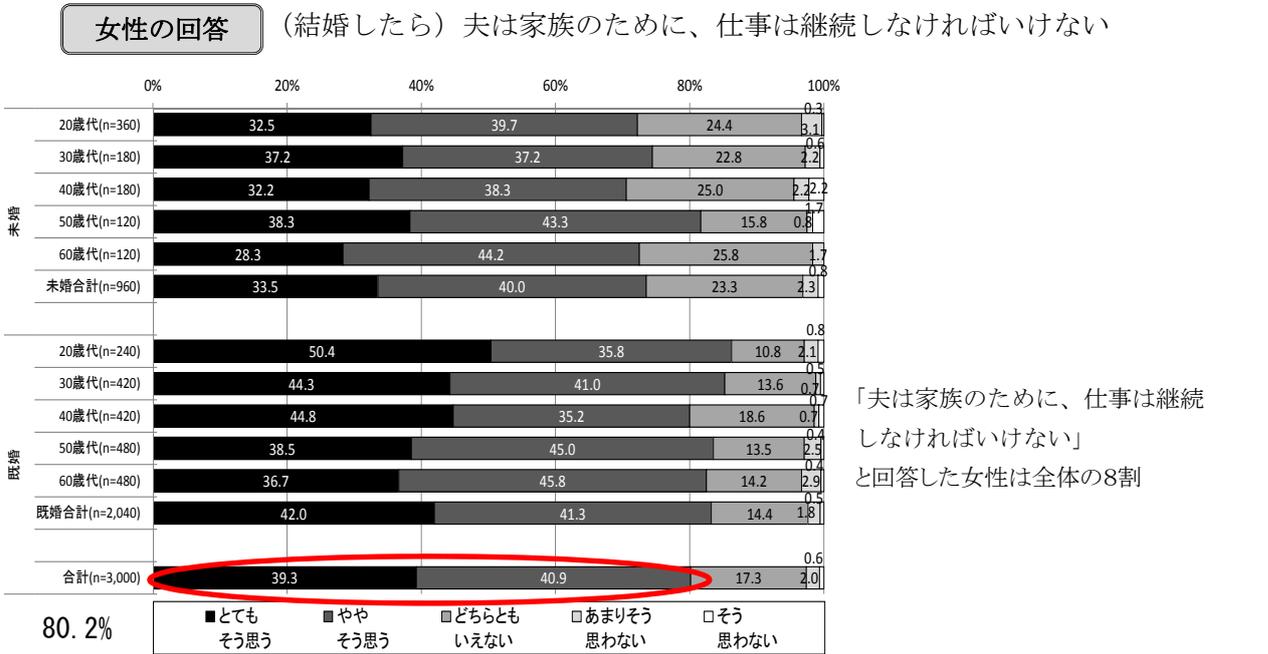
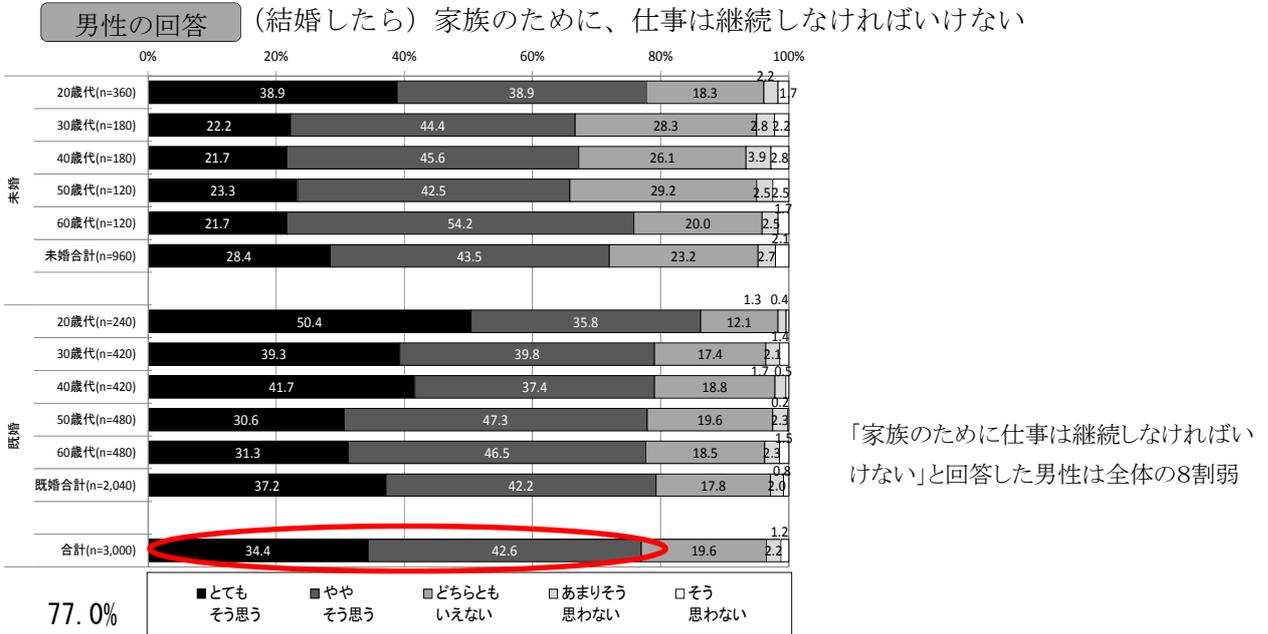
- ・「妻や恋人には自分の意見に従ってもらいたい」と回答した男性は全体の 3 割強。男性の収入が高いと、肯定する者が増加する。

男性の回答 妻や恋人にはできれば自分の意見に従ってもらいたい（男性の収入別）



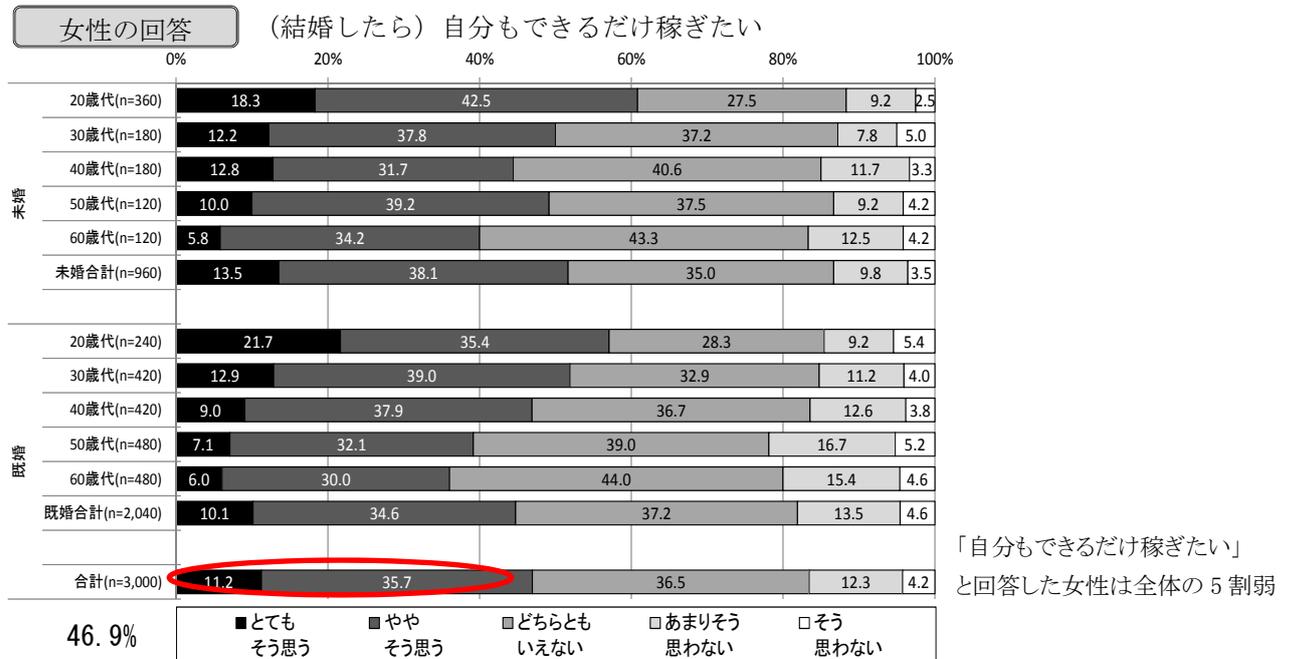
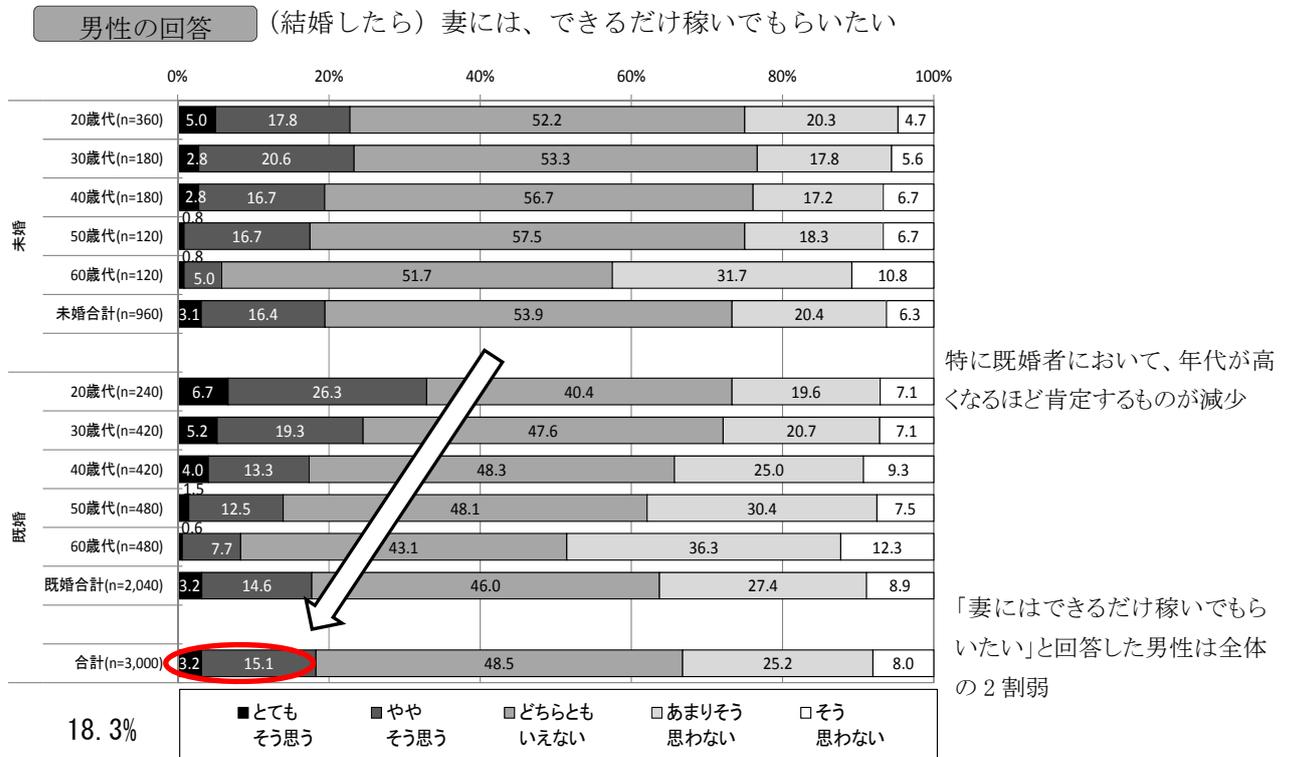
「男性は家族のために仕事」は男性も女性も肯定 –経済的役割志向–

・「家族のために仕事は継続しなければならない」と回答した男性は全体の8割弱。同様の役割を男性に期待する女性も全体の8割と多い。



妻の働きを期待しない男性と、自分も働きたい妻 –経済的役割志向–

・「妻にはできるだけ稼いでもらいたい」と回答した男性は全体の 2 割弱と、妻が働くことに期待しない傾向がみられる。特に既婚者においては、年代が高くなるほど肯定する者が減少する。一方、女性では「自分もできるだけ稼ぎたい」との回答が多く、全体の5割弱である。

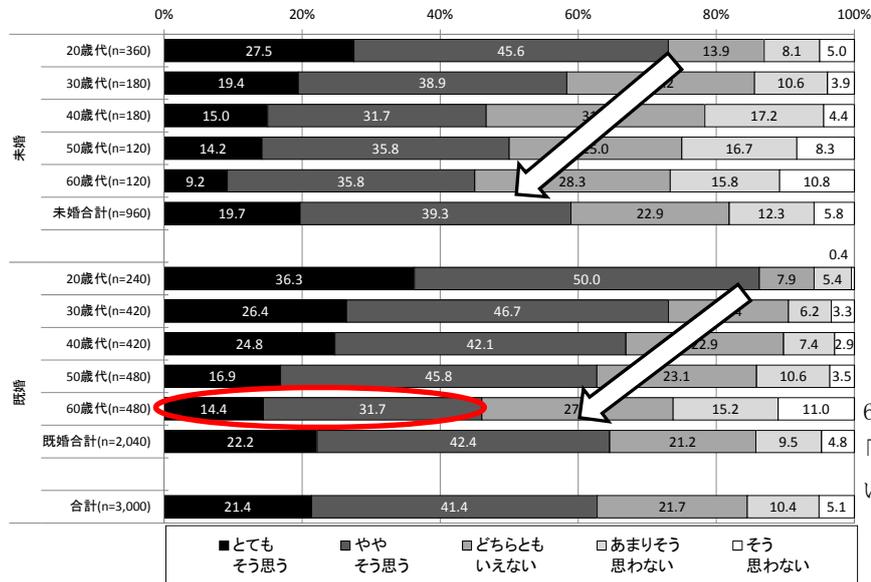


「仕事で評価されてほしい」と期待し続ける妻 -社会的役割志向-

- 「仕事で業績を上げ評価されたい」と回答した男性は全体の6割強。女性では7割強が夫に同様の期待を持つ。年代が高くなると肯定する男性は減少するが、女性ではあまり減少せず、男女の意識ギャップが見られる。

男性の回答

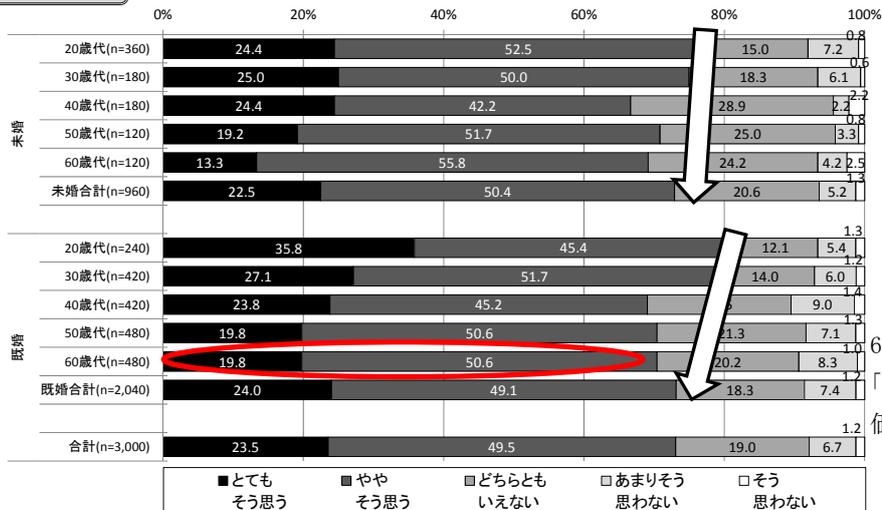
仕事で業績を上げ評価されたい



60歳代既婚男性の4割半ばが「仕事で業績を上げ評価されたい」と回答

女性の回答

夫には仕事で業績を上げ、評価されてほしい



60歳代既婚女性の7割が「夫には仕事で業績を上げ、評価されてほしい」と回答

3 日常生活の意識・行動と男性の役割分担意識に関連する「5つの志向性」等の関連について

夫婦の会話の頻度との関連性

- 夫婦の会話の頻度が高い場合は、「主導権役割志向」や「日常生活依存志向」、「私的感情抑制志向」が低い傾向が見られる。(概要14~15ページ)
- 夫婦の会話の頻度が高い場合は、「何もやる気がしない」と感じる事が少ない。

夫婦の会話の頻度と何もやる気がないと感じたこととの関連

